

特42
879

大西庄之助編輯
かゝれうちいがのすのけり
浪雙言伊賀逆水月
上之巻





山添伊兵衛
北藤武右門



荒木又右衛門

渡邊數馬

めく二十一年
 の末秋と云ふは...
 又五郎の...
 御前...
 懐らんと云ふと...
 中受バ...
 夜の...
 月あつた又...
 泉下の...

廿四上



又五郎父の送...
 渡辺頼貞
 又五郎の...
 村との...
 天公の...



河合又左門
 其の...
 返...
 返...
 返...
 返...
 返...
 返...

伊豆...
 士...
 士...
 士...
 士...
 士...
 士...



將対して止めまゝの
 戸とらば「本ゆき」なる
 途中宮の候へば福
 清浪の若成る事への不

渡辺朝貞と
 暫く人成り才運よく
 江戸へ下り朝貞の世に
 二輪舟へ乗つて出せしむ



又右門と
 改名し
 大板金の

山崎の
 内丸の
 自持の
 家来の
 荒木の



下巻の
下巻の
下巻の
下巻の

とまひたる或日親負ハ化乃の
るる因家中の志持あまき

渡辺方へあり救ふ人ト入

らへ今日まふの

渡辺親負

下巻の
下巻の
下巻の

○笑ひる
又五郎由



河合又五郎

と備に在
一が天いふ

○赤面

逃去
逃去
逃去

おののけいけい
おののけいけい
おののけいけい

多れバ
おののけいけい
おののけいけい

○河合又五郎の
○河合又五郎の
○河合又五郎の

○河合又五郎の
○河合又五郎の
○河合又五郎の



又五郎

又五郎

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

● 御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前



御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

御前

一刀

つぎの血を拭ひもあはれを
裁へし袖をまきり茶を
のびす

阿部四郎五郎

武士道の志願あり
同家中へ後迎敷貞と行果
政後の義の義とヤさん
徳の心とりの心と
守製をもあはれおの茶と
武士との心はじりあはれ



無松又四郎



又五郎

大之保主勝之

は捨供の
上へ
を
後

阿部の茶
ひまを
んうく多合
合せをれは対面あると
後へはひをのまを
それが一柱の心を
直標と文と

池田勘兵衛

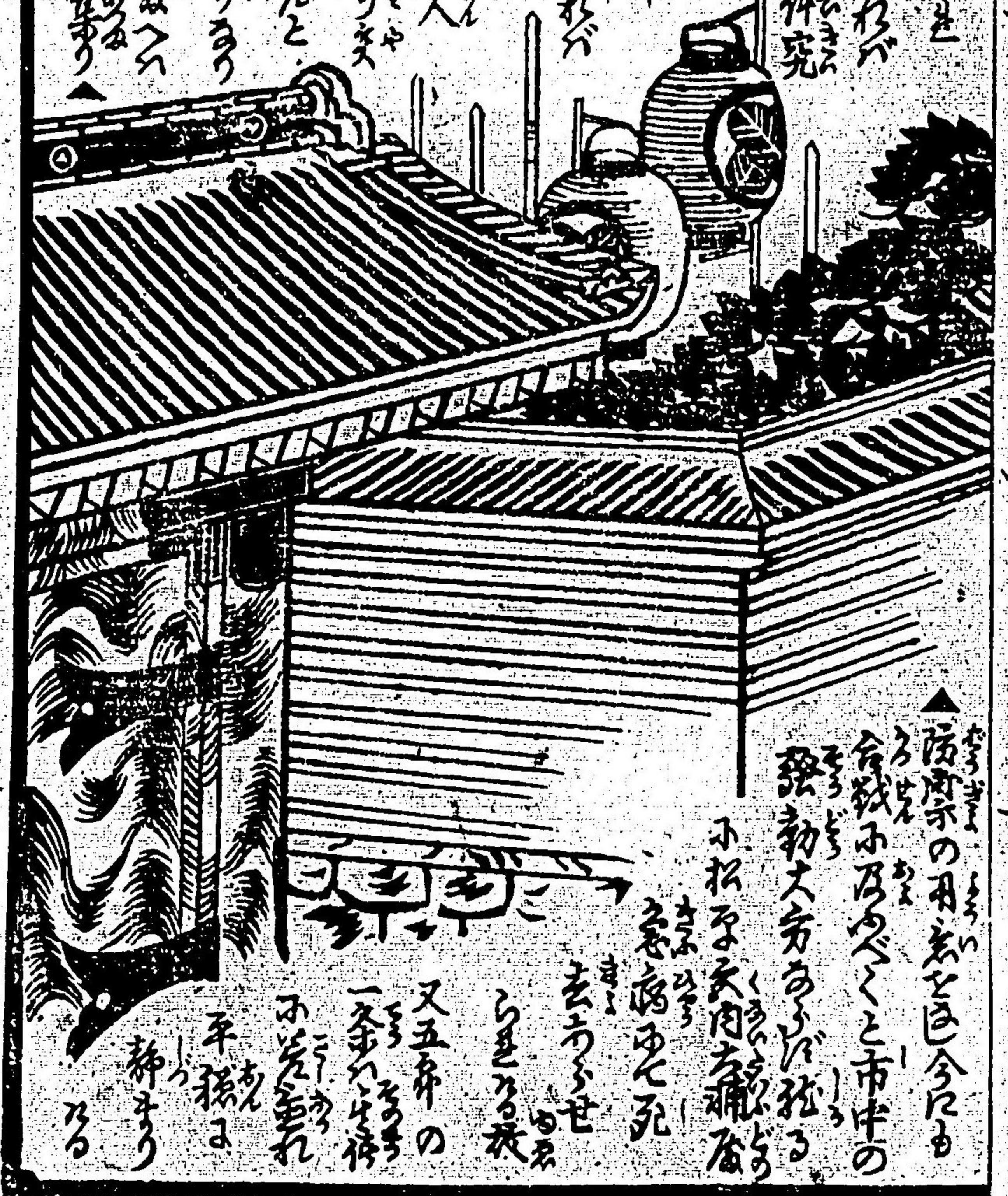


同表の面を
おもひを
朝貞の横刃又五郎ハチウとる

老母の
又五郎が



つぎ 入使の儀ありて
 益々其の儀ありて
 まるき喜ばるへ
 別里を速く
 別後して果てられ
 文内大補殿
 益々怒り上り入
 び七差向付りたま
 とびく交りたま
 又西経の巻を
 以て大勢あり



▲防閑の用を区今にも
 合戦小及急くと市中の
 強劫大方ありて
 小松平文内左補殿
 去りて死
 又五年の
 一茶の侍
 平松は
 静まり
 なる

價三錢五厘

明治十二年六月三日御届

編輯者 東京日本橋區本島町
 出版人 大西庄之助

